

食品添加物について⑤

個々の食品添加物の安全性は評価されていますが、食品添加物は、毎日摂取する食品に複数使用されていることもあるため、これらの食品添加物を摂取することで、人体への影響が増幅される?という不安の声があります。

内閣府 食品安全委員会は、2006年度に複数の食品添加物を摂取することによる「食品添加物の複合影響に関する情報収集調査」を行いました。

この調査は、主に①食品中の添加物同士の相互作用(化学反応)と②複数の添加物が体内に摂取された後の相互作用(特に相乗作用)に着目し、国際機関での検討結果や最新の研究成果などを幅広く調査し、添加物の複合影響についての考え方を整理したものです。

その結果、現在使用が認められているもののように蓄積性がなく、ADIの考え方を基本として個別にリスク評価とリスク管理が行われている添加物は、その複合影響についても安全性が十分に確保されていると考えられ、「日常摂取している範囲内では、添加物を複合してとることによる健康影響が実際に起こる可能性は極めて低い」ことが報告されています。



商品検査レポート



8月に実施した商品検査の結果をご案内します。

微生物検査	検査数	特に問題となる商品はありませんでした。
	958	

理化学検査	検査数	309
-------	-----	-----

主な検査項目	食品添加物※	簡易農薬	畜種判定	残留農薬※	ヒスタミン	カビ毒	放射性物質
	61	32	7	9	49	6	23

※外部検査機関へ
依頼 1 検体を含む

※外部検査
機関へ依頼

毎月の検査結果は HP にも記載しています。

<https://www.naracoop.or.jp/goods/letter/koedayori.html>